

岩松浅夫先生の経歴と業績

- 一九四四年 埼玉県に生れる
- 一九六三年 埼玉県立浦和高等学校卒業
- 一九六四年 東京大学理科Ⅰ類入学
- 一九六八年 東京大学文学部第Ⅰ類（文化学）印度哲学梵文学科進学
- 一九七一年 同 卒業
- 一九七一年 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻課程修士課程進学
- 一九七九年 同 博士課程単位取得退学
- 一九八二年 財団法人東方研究会専任研究員就任
- 一九九四年 創価大学文学部助教授就任
- 一九九九年 同 教授昇任（現在に至る）

著作目録

○共著

- 『日本人の仏教3 仏教の経典』東京書籍、一九八三年一〇月（『浄土三部経・阿弥陀仏の世界』の項を担当）
『講座敦煌6 敦煌胡語文献』大東出版社、一九八五年八月（『敦煌のコータン語仏教文献』の項を担当）
『禅へのいざない1 インド仏教と禅定』大東出版社、一九九一年四月（『仏教興起の時代背景』の項を担当）

○共訳

- 『原始仏典1 ブッダの生涯』講談社、一九八五年四月（『大いなる死（大般涅槃経）』の項を担当）
ピーター・L・バーガー編『神の知られざる顔——宗教体験の根本構造』教文館、一九八五年一〇月（海野大徹「真宗における宗教体験の性格」の項を担当）

○論文（いずれも単著）

- 「大般涅槃経における一、二の問題点——涅槃経小本の翻伝をめぐって——」
『印度学仏教学研究』第二四卷第二号、一九七六年三月
「涅槃経小本の翻訳者」『印度学仏教学研究』第二五卷第一号、一九七六年一二月
「阿弥陀仏の原語について——『大阿弥陀経』の音写漢字から見た「阿弥陀」の原語考——」
『仏教学』第四号、一九七七年一〇月
“Prakritic Aspects Appearing in the Chih Ch'en's Translation (I),”

“Some Names in Pan Chou San Mei Ching,” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 28, No. 1, 1979.12

「無限の生命——釈迦牟尼仏と阿弥陀仏——」『仏教文化』第一一巻、一九八一年九月

「無量」と「甘露」『田村芳朗博士還暦記念論集 仏教教理の研究』春秋社、一九八二年九月

「天中天」考『東方』第一号、一九八五年四月（横書）

「仏教梵語法句経考——説出世部との関係を中心に——」

『平川彰博士古稀記念論集 仏教思想の諸問題』春秋社、一九八五年六月
「七仏通戒偈」について『東方』第二号、一九八六年十一月（横書）

「諸惡莫作偈考」『高崎直道博士還暦記念論集 インド学仏教学論集』春秋社、一九八七年一〇月

「道行般若」古写経の音写語について(1)『東方』第三号、一九八七年十二月（横書）

「古訳〈涅槃経〉の部派帰属問題」『印度学仏教学研究』第三六卷第二号、一九八八年三月

「仏般泥洹経」の「結集伝説」考『仏教学』第二五号、一九八八年十二月

「道行般若」古写経の音写語について(2)『東方』第四号、一九八八年十二月（横書）

「道行般若」古写経の音写語について(3)『東方』第五号、一九八九年十二月（横書）

『SFT Kat.-Nr. 33 中の未比定の梵文阿含断簡について』

『印度学仏教学研究』第三八卷第一号、一九八九年十二月（横書）

「十誦律」・「多識多知諸大経」について(1)『仏教研究』第一九号、一九九〇年三月（横書）

「梵文阿含経雜俎」『三康文化研究所年報』第二二号、一九九〇年三月

「十誦律」・「多識多知諸大経」について(2)『仏教研究』第二〇号、一九九一年三月（横書）

「薩」字の成立とその変遷]

『前田専学博士還暦記念論集 〈我〉の思想』春秋社、一九九一年一〇月（横書）

『SHT Kat.-Nrn. 32, 33 にひいて』『印度学仏教学研究』第四〇巻第一号、一九九一年一二月（横書）

『阿弥陀仏再説（Ⅰ）』『三康文化研究所年報』第二四・二五号、一九九三年三月

『ガンダーラ彫刻と阿弥陀仏』『東洋文化研究所紀要』第一二三冊、一九九四年二月

「〈無量寿経〉梵本の往観偈について——阿弥陀仏の原語問題との関係から——」

『印度学仏教学研究』第四二巻第二号、一九九四年三月（横書）

『梵文無量寿経往観偈補正』『創価大学人文論集』第七号、一九九五年三月（横書）

『Amītyus- へ Amitābha——両名の先後関係を巡って——』

『印度学仏教学研究』第四三巻第二号、一九九五年三月（横書）

『阿弥陀仏の原語と起源』『精神科学』第三四号、一九九五年一二月

『SHT Kat.-Nrn. 32, 33 補説]

『今西順吉教授還暦記念論集 インド思想と仏教文化』春秋社、一九九六年一二月（横書）

『黄文弼『塔里木盆地考古記』所掲の一梵文断簡について』

『創価大学人文論集』第九号、一九九七年三月（横書）

「〔根本〕有部の長阿含経について』『印度学仏教学研究』第四六巻第一号、一九九七年一二月（横書）

「カローシユティー文書中の仏教梵語の偈頌について(Ⅰ)」

『創価大学人文論集』第一〇号、一九九八年三月（横書）

「『十誦律』『迦絺那衣法』の梵文断片とその復原」

『印度学仏教学研究』第四七卷第一号、一九九八年二月（横書）

「カローシユテイー文書中の仏教梵語の偈頌について(2)」

『シルクロード研究』第二号、二〇〇〇年三月（横書）

「有部系『長阿含經』の「戒蘊品」について」

『江島恵教博士追悼論集 空と實在』春秋社、二〇〇一年二月（横書）

「カローシユテイー文書第511番について(1)」『創価大学人文論集』第一三号、二〇〇一年三月（横書）

「『新歳經』について——「新歳」の原語の問題を中心に——」

『印度学仏教学研究』第五〇卷第一号、二〇〇一年二月（横書）

「新歳經類について——經典伝持の一形態」

『木村清孝博士還暦記念論集 東アジア仏教——その成立と展開』春秋社、二〇〇二年十一月

「カローシユテイー文書第511番について(2)」『創価大学人文論集』第一四号、二〇〇二年三月（横書）

「梵文（断簡）『諸法無行經』の偈頌の韻律」『印度学仏教学研究』第五二卷第二号、二〇〇四年三月（横書）

「『諸法無行經』梵本（断簡）の偈頌について(1)」『創価大学人文論集』第一六号、二〇〇四年三月（横書）

「『諸法無行經』梵本（断簡）の偈頌について(2)」『創価大学人文論集』第一七号、二〇〇五年三月（横書）

「梵文『月灯三昧經』の偈頌について」『印度学仏教学研究』第五三卷第二号、二〇〇五年二月（横書）

「梵文往觀偈補説」『創価大学人文論集』第一八号、二〇〇六年三月

「amridaha/amridae 銘像は果して阿弥陀仏を表すに非ざるか——ガンダーラ彫刻の一碑銘の解釈をめぐって

——」『印度学仏教学研究』第五四卷第二号、二〇〇六年三月（横書）

“On the Metre of the Verses of the *Sarvadharmaṇḍaśrutiśāstra*,”

「梵文維摩經偈頌攷正(1)」『創価大学人文論集』第一九号、二〇〇七年三月(横書)

「『維摩經』梵本の偈頌について」『印度学仏教学研究』第五五卷第二号、二〇〇七年三月(横書)

「維摩經の偈頌について——諸異本の比較を中心に——」

『印度学仏教学研究』第五六卷第一号、二〇〇七年二月(横書)

「梵文維摩經偈頌攷正(2)」『創価大学人文論集』第二一〇号、二〇〇八年三月(横書)

「偈頌から見た支謙訳『維摩詰經』の特徴について」

『印度学仏教学研究』第五七卷第一号、二〇〇八年二月(横書)

「梵文『月灯三昧經』の偈頌再考——韻律分析を中心に——(1)」

『創価大学人文論集』第二一〇号、二〇〇九年三月(横書)

「梵文『法華經』「方便品」第29偈について——和訳と解釈をめぐって——」

『創価大学人文論集』第二一〇号、二〇一〇年三月(横書)

「『法華經』「方便品」の一、二の偈頌について——テキスト校訂の問題を中心に——」

『印度学仏教学研究』第五九卷第二号、二〇一一年三月(横書)

「梵文『月灯三昧經』の偈頌再考——韻律分析を中心に——(2)」

『創価大学人文論集』第二四〇号、二〇一二年三月(横書)

「梵文『十地經』の偈頌について——特に韻律の問題を中心に——」

『印度学仏教学研究』第六一巻第一号、二〇一二年二月(横書)

「インド古典詩の韻律名——アプテの「韻律表」索引——」

「梵文『十地經』「序品」第3群の偈頌について」

『創価大学人文論集』第二五号、二〇一三年三月（横書）

『印度学仏教学研究』第六二卷第一号、二〇一三年二月（横書）